

企業等で働いてある程度の収入がある人を対象にしていましたが、現在は、まだまだ不十分ですが、どんな重い障がいの方も、グループホームで生活を支えることができるように考えていく時代になっています。この間制度的にも、措置費制度から、支援費制度になり、その後現在の障がい者総合支援法となり、ご利用者の立場も、措置により保護される立場から、権利の主体として、契約者としてサービスを利用する立場に変化してきました。法律にも制度にもめまぐるしい変化がありました。

これまで、育成会や、港育成園を取り巻く状況には大きな変化がありましたが、私は、今年施設現場に立つことになり、あらためて強く、私たち法人職員の最大の使命は、『ご利用者の豊かな暮らしを実現し支えること』であると感じています。そのことで、ご家族も安心して、我が子の将来の暮らしを見守りながら支えていくことにつながるのではないかと考えます。親亡き後ではなく、今から、それぞれの豊かな暮らしを実現し、支えることを目指すのです。私たちは、そのことを港育成園のすべてのスタッフと共有して、その使命を果たしていけるよう努力します。これまでの港育成園の実践を踏まえて、私たちの役割を果たしていきたいと思ひます。みなさま、ご指導ご協力よろしくお願ひいたします。

港第二育成園 管理者 杉原 浩司



昨年度に引き続き今年度も港第二育成園の管理者を拝命いたしました。港第二育成園の管理者になって一年。思えば昨年度はコロナ禍で対応に追われた一年でした。ご利用者の皆さんも楽しみにしていた行事が軒並み中止になり残念な思いをさせてしまったと思ひます。大阪でも緊急事態宣言が明けたと思ったら、まん延防止等重点措置が発出されるなど、まだまだ予断を許さない状態です。

でもそんな中だからこそ、できることも多いのではないと思ひます。例えば昨年度行事ができない中で、何とかご利用者が楽しめることはないかと、密を避け、小グループでの取り組みを始めました。最初はコロナ禍の中でも楽しめるようにと始めたのですが、やっっている中でご利用者一人一人に気づきがあり、充実したものになったと思ひます。これについてはコロナ禍が

終息しても続けていこうと思ひます。新たな挑戦も始まります。港第二育成園では以前より一貫して「多様な働き方を支える」ということにこだわって支援してきました。ご利用者一人一人が「自分らしく」「自分の望むように」働く事を大切に考え、①園内での受注作業 ②施設外実習 ③A型事業所などの移行に向けた取り組み、の3つの柱で作業に取り組んできました。ところが、このコロナ禍で②と③の取り組みが難しくなってきました。そこで今年度これまで港育成園で取り組んできたクッキーなどの製菓作業を港第二育成園で取り組む事になりました。業者の仕様に合わせる受注作業に、ご利用者に合わせて工程を組める製菓作業が加わることで、働く幅が広がればと思ひます。コロナ禍で各所のイベントが中止になる中で販路の不安はありますが、今だからこそご利用者がじっくり技術を習得できる機会でもあります。ご利用者の多様な働き方を実現するため、是非皆様にもご協力いただきます様お願ひいたします。

また、今年度は当事業所内に就業・生活支援センターが移転いたします。他事業と連携することは、就労を目指すご利用者にとって大きなチャンスにつながると考えます。

ピンチをチャンスに変えながら「障がいのある人が安心して心豊かにすごせるように」チャレンジできる一年であるよう頑張ります。

ワークスいけじま 管理者 今井 布美



今年度ワークスいけじまの管理者を拝命いたしました今井布美と申します。これまで東成育成園・福島育成園・大阪市西部地域障がい者就業・生活支援センターで勤務をさせていただいており、昨年度よりワークスいけじまに配属になりました。

昨年度はサービス管理責任者として、ご利用者ひとりひとりの個性・日中活動・地域生活に向き合っていました。

ワークスいけじまは中高年の方が利用されており、大半の方が一人暮らしがグループホームに入居されています。日々の体調や様々なお困りごと等の近況を把握し、必要に応じて関係機関と情報の共有をおこなっています。スタッフ間での情報共有も密におこない、

スタッフ全員がご利用者の地域生活を支える一員であることを自認して業務に就くことを目指しております。

地域生活を支える関係機関の中で、ご本人たちと一番長い時間を共有しているのが、わたしたちワークスいけじまのスタッフです。ご利用者ひとりひとりの暮らしを支えるために地域の支援者となつたり連携をとっていく大切さを日々感じ、その中で日中活動を支えるいけじまの役割を考えながら支援をおこなっております。

昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のために、思うように行事を行うことが出来ず(どこも同じだと思いますが…)、我慢の一年でした。現在また感染者が増えウイルスが猛威をふるっていますが、その中で感染対策を行いながら、ちょっとしたお楽しみや健康管理の一助になるようなことなど、何かできることを考えていきたいと思ひます。

今年度は、いけじまの改修工事が予定されており、ご利用者の皆様はじめご家族や関係機関の方にはご心配・ご迷惑をおかけします。ご不安を少しでも軽減できるよう努めながら、より良い環境で日中活動ができることを楽しみに日々過ごしていただけるよう、精いっぱい頑張っていますのでよろしくお願ひいたします。

大阪市西部地域障がい者就業・生活支援センター 管理者 林 祥子



『丁寧な関わりを心がけて…』
西部地域障がい者就業・生活支援センター(以下、就ポツ)の管理者を拝命し、桜の舞い散る中、7年間在籍いたしました東成育成園より再び弁天町の地に赴任してまいりました。就労支援の現場に携わるのは、実に十数年ぶりになります。

平成14年5月に全国21か所でスタートしたこの就ポツ事業ですが、令和2年4月現在では335センターにも及ぶ大きな事業として障がい者福祉の一翼を担っています。

この間、さまざまな法制度の整備が進み、障がい者雇用に対する社会や企業の意識は高まっていることは確かです。とはいえ、時代の変化によって多様化する働き方の中で、働くことの意味や必要性をライフス

テージにどう反映させるか…特に、いまコロナ禍にあつて、改めて就ポツに求められていることは多いのではないかと実感しています。大阪市就ポツのHPには、「就労に必要なスキルとして…心と体の健康の管理、日常生活の管理、社会生活に適応する力、職業生活を続ける力、仕事をこなす力の育成を。」と掲載されています。これらを身につけ、恐る恐る社会に挑戦する方々としつかり併走しサポートできるよう励みたいと思ひます。

年度開始早々に嬉しい出来事がありました。かつて私が就労支援に就いていた1996年に港第二育成園を経由し就労した一人の女性…暑い中、南港にある服飾関係の企業で実習をし、一般就労に結びついた方です。あれから25年、幾度かの転職の後、いまは某百貨店に勤務しています。その彼女が『松本さん!(私の旧姓です)私、結婚することになりました。彼と一緒に東京に住みます!!』と報告に来てくれました。恥ずかしそうに、でも誇らしげに話す姿はとても眩しく映り、私にも新たな活力がわいてきました。

新年度早々、居宅も含め就ポツの事務所が港第二育成園に移転します。スタッフの顔ぶれも一新、事務所も一新…気持ちも新たに業務に邁進する所存です。どうぞ宜しくお願ひいたします。

居宅介護事業所 管理者 服部 剛志



昨年度に続き、居宅介護事業所の管理者を拝命しました服部です。力不足な部分も多々あるかとは思ひますが、今年度もよろしくお願ひいたします。

昨年度は新型コロナウイルスの影響で、ご利用者や支援ヘルパーへの感染を防ぐため、余暇支援に関わる移動支援や行動援護の各サービス提供を停止ならびに利用自粛の要請をさせていただきました。

また、ご利用者からもサービスの利用控えや、登録ヘルパーからの活動辞退もあり、移動支援ならびに居宅介護のサービス提供時間が令和2年度は前年度と比較して約6割も減少することとなり、事業収入も大幅に減少することとなりました。自粛の要請に対しては、ご利用者や登録ヘルパーのご理解ご協力をいただきましたが、「本当はヘルパーを使ってお出かけをしたい」「ヘルパーとして、もっと支援をしたい」